



地域医療センター
地域医療連携通信

4

APR. 2007
Vol. 18

● 外来診療時間 ●

午前8時30分～正午
午後1時～午後4時30分
(休診日)
土・日・祝日



術場写真:心臓血管外科

目次: CONTENTS

- 2 退任のご挨拶 — 吉岡諄一企業長
- 3 診療科のご紹介 (第8回)最終回
- 4 1. 泌尿器科
- 4 2. ペインクリニック科
- 5 3. 脳神経外科
- 6 第3回 CIAOドクターズ
- 6 ハーモニーこうちに感謝する夕べ
- 7 電話での外来仮予約について
- 8 地域医療連携病院のご紹介・おしらせ

患者さんが主人公の
病院をめざして

高知医療センターの基本理念

1. 患者さんが主人公の病院にします
2. 高度な医療を普段着感覚で提供します
3. 自治体病院としての使命を果たします

平成19年4月1日発行
にしじ 4月号(第18号)
責任者:堀見 忠司
編集人:地域医療連携広報委員
特別編集委員
発行元:高知医療センター
地域医療連携本部
印刷:共和印刷株式会社

高知医療センター
〒781-8555 高知県高知市池2125-1
TEL:088(837)3000(代)



退任のご挨拶 吉岡 諄一 企業長

企業団の前身である県市病院組合の副管理者に就任させていただいて3年、企業長に就任させていただいてから2年3ヶ月。この間、多くの方に支えられながら、県民市民の皆さんの期待に応えられる病院づくりに、私なりに全力で取り組んでまいりました。

特に、企業長を務めさせていただいた2年余は、病院統合とPFIという全国に例のない病院事業のスタート前後の時期でありました。それは、中央病院でもなく市民病院でもない、また大学病院とも違う、過去の高知県には存在しなかった高機能実践型の病院づくり、その基礎づくりに相当する時期であったと思います。まさに試行と錯誤が交錯する一方で、予期せぬ課題や問題点一再ならずが発生し、その克服に多くのスタッフが忙殺される2年余でありました。

しかしながら医療面においては、すでに開院2年にして、県内はもとより県外の医療関係者の間においてもきわめて高い評価をいただけるまでになっています。一方、経営面では、県内外の有職者による高知医療センター経営改善推進委員会からいただきました提言書を指針とする収支改善策が来年度以降実施に移されることになり、ここ数年の経営改善について一定の道筋がつけられました。

開院3年を迎える高知医療センターのこのような現状を踏まえるならば、ここで人心を一新し、新しい企業長のもとで新たな気持ちで取り組んでいただくことが長期的な視点からも望ましいと考え、この度職を辞することにさせていただきました。また、開院後、私の至らなさからいくつかの問題を生じさせてきましたが、それらについても一定のけじめになるのではと考え、決断いたしました。

平成5年、両病院の統合への議論が開始されて以来、高知市環境部への移動による2年間を除き、通算13年にわたり本事業を担当させていただきました。非力な私が曲がりなりにも務めを果たすことができましたのも、県市医師会をはじめとする地域医療機関の諸先生方のご指導とご鞭撻の賜物であり、心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

吉岡 諄一



診療科のご紹介

高知医療センター各診療科を2006年8月よりご紹介しています。
最終回の第8回目は以下の診療科のご紹介です。

外来診療予定表 (緑色:外来診療日です。)

外来診療科名	月		火		水		木		金	
	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後	午前	午後
泌尿器科										
ペインクリニック科										
OB(肥満)外来										
脳神経外科										

スケジュール変更をする場合がありますのでご了承ください。
変更については高知医療センターホームページをご覧ください。

— 外来・専門外来 —

泌尿器科

ペインクリニック科

脳神経外科

1. 泌尿器科

— 那須良次 —

<はじめに>

この25年間で泌尿器科は大きく変わりました。

前立腺肥大症の治療は開腹術から内視鏡手術、更には内服薬による治療が中心となりました。尿路結石に対しては体外衝撃波結石砕石術(ESWL)や内視鏡的手術が主流となり、開腹して摘出することはほとんどなくなりました。多くの疾患でより非侵襲的な治療が普及しましたが、腎癌、膀胱癌、前立腺癌などの泌尿器科癌で治療をめざすなら治療の第一選択は今なお手術です。しかし、癌の手術でも腎機能、排尿機能、性機能を温存する高い技術の手術が要求されています。

診断の面では前立腺癌や腎癌の早期発見法が開発され、一般健診や人間ドックのなかに取り入れられています。前立腺癌検診としての前立腺特異抗原(PSA)検診はここ数年急速に普及しつつあります。治療面では前立腺肥大症などの排尿障害、膀胱炎や腎盂腎炎などの感染症、勃起障害などで画期的な薬剤が開発され普及しています。

<医療センター泌尿器科の現状>

開院後2年間の主な手術の件数を表1に示します。がんセンターとしての役割から癌に対する手術が多くを占めています。

表1：開院後の主な手術の件数

症例	2005年	2006年	2年間の合計
根治的腎摘除術 (腹腔鏡補助下)	14 (4)	15 (6)	29 (10)
腎癌に対する部分切除術	2	5	7
腎尿管全摘除術 (腹腔鏡補助下)	6 (2)	5 (1)	11 (3)
膀胱全摘除術	3	6	9
経尿道的膀胱腫瘍切除術	58	58	116
前立腺全摘除術	17	33	50
骨盤内臓全摘術	1	2	3
回腸導管作成	6	6	12
尿管皮膚瘻術	2	4	6
経尿道的前立腺手術	15	21	36
膀胱腸瘻根治術	1	1	2
腎出血に対する内視鏡的止血術	3	5	8
間質性膀胱炎に対する膀胱水圧拡張術	0	8	8

1) インフォームド・コンセントとセカンド・オピニオン

目の前の患者さんにとって最良の治療は手術か、抗腫瘍治療か、放射線療法かを正しく判断する必要があります。現在の泌尿器科の標準的な考え方に基づいて、病状、年齢、合併症などを考慮した上で治療に関する私たちの考えを患者さんとご家族にお伝えします。ただし、最終的に治療法を決めるのは患者さんご自身です。他施設でのセカンド・オピニオンを希望されれば情報提供書を準備します。癌に関わらず泌尿器科疾患の治療法については様々な考え方があります。専門家の意見を参考にし、十分納得した上で治療を受けていただければと考えています。

2) 泌尿器科癌の治療

腎癌では腎機能温存を目的に腎部分切除術を導入しました。健診で偶然発見される小さな腎癌(腫瘍径3~4cmまで)



前立腺全摘除術の手術風景。
体腔鏡を利用し術野をモニターに映しています。



前立腺全摘除術の手術創。約7cmの切開です。

が主な適応になります。また、従来の開腹術に加え、腹腔鏡を用いた腎摘術や小切開による手術も行っています。小切開による腎摘術は先進医療の認定を申請中です。症例に応じて適切な手術方法を提示します。前立腺癌は検診の普及につれて増加傾向にあります。癌の進行度と患者さんの状態を検討し、手術、放射線、内分泌療法を選択します。前立腺に局限した早期の癌に対しては全摘除術が選択されますが、当科では腹腔鏡を併用した合併症の少ない術式を採用しています。入院期間も2週間弱に短縮されました。放射線治療は、前立腺癌の多いアメリカでは早期の前立腺癌に対する根治的な治療法として全摘除術と同列に挙げられています。合併症のため手術が難しい患者さんにとっては大きな福音です。当センターでは放射線科との協力で外来通院での治療も可能です。

膀胱癌に対する手術としては内視鏡手術が中心となりますが、浸潤癌では開腹手術も必要になります。尿路変更法としては回腸導管が一般的ですが、腸管を利用した代用膀胱手術の経験も豊富です。抗癌剤治療は食欲不振、全身倦怠感など副作用が強く、長期間の入院が必要でしたが、新しい薬剤やレジメの導入により副作用が軽減され外来治療が可能となりました。通院で治療しながら自宅での時間を過ごしていただけるようになりました。

泌尿器科癌の治療は当センターにお任せください。放射線療法科、化学療法科とも連携しながら個々の症例に対して最適の治療法を提示します。

3)腎移植、透析

腎移植や透析は泌尿器科の得意分野です。腎臓科、移植外科、小児科と協力して取り組んでいます。

4)前立腺肥大症などの排尿障害、腎出血、尿路結石に対する治療

男性の前立腺肥大症、女性に多い過活動膀胱、尿失禁、膀胱炎など排尿障害は泌尿器科で多くを占める疾患です。初期治療は薬物治療が中心となりますが、治療無効例に対しては手術も考慮します。前立腺肥大症に対するレーザー手術は合併症のため、従来の手術が困難とされていた患者さんにとっては大きな福音です。間質性膀胱炎、特発性腎出血など治療抵抗性の症例に対しては尿路内視鏡手術を応用しています。お困りの患者さんがあればご連絡ください。

尿路結石症は泌尿器科で最も多い疾患です。先生方も突然の痙攣発作で来院される患者さんを数多くご経験されていることと思います。開院以来、体外衝撃波碎石機が稼働しておらずご迷惑をおかけしておりましたが、本年度から新機種を導入し治療を開始いたしました。

5)外来通院について

病状が安定している患者さんでは、ご紹介いただいた先生やかかりつけの先生(ホームドクター)のところで処方していただくことが可能です。

です。前立腺

肥大症、尿路結石症などは生活習慣病であり、患者さんの体調を以前から良くご存知のかかりつけの先生に主治医になっていただくほうが望ましいと考えて

います。女性の排尿障害についても初期治療はこちらで導入し、症状が安定した時点で処方依頼する症例が増えています。地域の先生方と当科を繋ぐ「なっとくパス前立腺疾患」、「なっとくパス女性泌尿器科疾患」を作成しています。通院時にご活用ください。



<おわりに>

新たな検査法、治療法の開発で泌尿器科はこれからも大きく変わっていくでしょう。今後も優れた新しい技術を積極的に取り入れ、患者さんにとって、ご紹介いただく先生方にとって頼りになる泌尿器科であり続けようと思えます。高知医療センター泌尿器科は高度な技術を普段着感覚で患者さんに提供します。お困りの症例があればご連絡ください。

高知医療センターホームページ内に泌尿器科の代表的疾患を紹介しています(前立腺癌、腎癌、膀胱癌、前立腺肥大症、尿路結石症、膀胱炎、血尿など)。日常診療の一助となれば幸いです。

<担当医師のプロフィール>

那須良次(なす よしつぐ) 科長
昭和59年岡山大学医学部卒業
日本泌尿器科学会専門医・指導医

小野憲昭(おの のりあき) 医長
昭和60年岡山大学医学部卒業
日本泌尿器科学会専門医・指導医

倉繁拓志(くらしげたくし) 副医長
平成11年 岡山大学医学部卒業
日本泌尿器科学会専門医

(文責:那須良次)

2. ペインクリニック科

— 青野寛 —



痛みは多くの病気の初発症状、主症状の一つでもあります。ペインクリニックの主たる仕事はこの痛みをとる、とれなくても痛みを軽減することにより、患者さんご自身のもとの病気の治療に役立つ事を目標にしております。

<どんな患者さんがペインクリニック科の適応に?>

痛みがある人は、ペインクリニック科の対象にはなりますが、当科の特徴として、まずがん拠点病院のために、がんの患者さんが多く、がん性疼痛の患者さんが全体の2~3割ぐらゐを占めます。また救急病院でもあるため、外傷性頸部症候群、脳梗塞などの脳血管障害の後遺症や反射性交感神経性ジストロフィーなどの外傷後の神経障害の患者さんや後縦靭帯骨化症、パーキンソン病、SLEなどの難病指定の患者さんが合わせて1~2割程度と多いのも特徴です。

一般のペインクリニック施設のように、腰下枝痛などの脊椎疾患、帯状疱疹などの治療も行っています。定期的に来られる患者さんだけでなく、普段は定期的を受診せず、痛くなれば飛び込みで受診する患者さんもおられます。

<ペインクリニック科の外来診療>

外来診療は3階の中央診療部の診察室で行っており、診察室の隣にあるリハビリ室に神経ブロックなどを行う処置室があります。現在の外来診療は月、水、金曜日は午前、午後



よりX線透視下、CTを使つての神経ブロックを行い、水、金曜日の午後には、手術室での神経ブロック、脊髄刺激電極挿入、埋め込み術などを行っています。

処置室での神経ブロックで星状神経節ブロック、硬膜外ブロックなどを中心に、各種神経ブロックを行っています。同じ処置室では、近赤外線レーザー照射また鍼なども行っています。顔面痙攣にボトックス注射、またプロスタグランディン、キシロカイン、ケタミンなどの点滴も行っています。

<X線透視室、CT室での神経ブロック>

3階の同じ階にはX線透視室があり、主に火曜日、木曜日の午後には、X線透視下で神経ブロックを行っています。また他の曜日でも、透視室があておれば飛び込みの患者

さんでも神経ブロックをやらせてもらっています。内容は主に短時間で終わる、腕神経叢ブロック、腰部神経根ブロック、椎間関節ブロックなどですが、最近では高周波熱凝固を利用した、脊髄神経後枝内側枝や肩関節関節枝や膝関節関節枝の末梢神経ブロックも行っています。頸部神経根ブロックは腕神経叢ブロックが安全で簡易なために、件数が落ちてきており、入院患者さんに限って行っています。これも入院患者さんではありますが、アルコールなどの神経破壊剤を使用する肋間神経ブロック、腰部交感神経節ブロックなども行っています。CT室では内臓神経(下腸間膜動脈神経叢)ブロックなどを放射線科と一緒に行っています。

<ペインクリニックの入院業務>

脳神経外科、整形外科、皮膚科、化学療法科などの他科との連携はスムーズであり、紹介も多く併診で診ている事が多いです。当センターはがん拠点病院であるために、がん性疼痛の紹介が多く、オキシコンチンなどの麻薬の処方から、X線透視、CTを使った内臓神経(下腸間膜動脈神経叢)ブロック、皮下に埋め込むクモ膜下持続カテーテル、持続硬膜外カテーテル挿入、埋め込み術などを行い、疼痛除去を行っています。

他院からの紹介患者さんが主ですが、帯状疱疹から、腰下肢痛などの脊椎疾患、がんの患者さんの疼痛コントロールまで、当科でも入院を受け入れております。最近では、経過の長い、神経因性の難治性の痛みの患者さんが多く、頭を悩ませております。難治性の痛みに対して、硬膜外刺激電極挿入してのトライアル、更に電極の埋め込みも行っています。

<おわりに>

最近、患者さんの間にも知られるようになってきましたが、ペインクリニック科という名前はまだまだ馴染みのない科かもしれません。痛みがあり、それに難渋されている患者さんがおられましたら、お気軽にご相談ください。

(文責：青野寛)

平成17年4月～18年3月までの1年間で外来処置室
X線透視室での主な神経ブロックの症例数

	症例	数
1	腰部(仙骨)硬膜外ブロック	868
2	トリガーポイント注射	784
3	星状神経節ブロック	626
4	肩甲上神経ブロック	122
5	腕神経叢ブロック(透視下で)	114
6	腰部神経根ブロック(透視下で)	98
7	椎間関節ブロック(透視下で)	62
8	頸部、胸部硬膜外ブロック	26
9	眼窩下神経ブロック(高周波熱凝固も含む)	24

3. 脳神経外科

— 森本雅徳 —

<脳神経外科診療>

脳神経外科は、森本雅徳、福井直樹、岡田憲二の3名と救急脳神経外科、溝淵雅之の4名でスタートしました。昨年秋からは、須崎くろしお病院のご協力を得て福田真紀が加わり5名体制となりました。地域の先生方からたくさんの症例をご紹介いただいたのと、救急車で搬入される

患者さんが多く、昨年1年間の入院患者数は684例で、スタッフは不眠不休でした。入院患者の内訳は、脳血管障害が381例と半数以上を占め、頭部外傷93例、脳腫瘍50例、先天奇形7例などでした。救急搬入入院となった患者数は395名で入院の6割近くを占めており、このうちヘリ搬送は26件でした。直接自宅へ退院できた患者さんは、215名で、425名の患者さんは回復期リハビリ施設などに転院されています。診療連携で大変お世話になっています。

開院当初は外来診療を毎日行っていました。しかし、余りの忙しさに全てに対応することは困難となり、定期の手術日である火曜日と、脳血管内治療を行う水曜日の外来は閉めさせていただき、救急患者のみの対応とさせていただきます。更に火曜、水曜日勤帯の神経救急のファーストコールを神経内科に担当してもらいました。しかし、それでも手が足りないような状況が解消されていません。

昨今、医師不足が問題となっています。新臨床研修制度がスタートしてから地方の脳外科医の数は、非常に少なくなりました。高知県においても次から次へと施設の縮小や閉鎖が行われています。特に、県東部においては救急を担当いただける脳外科はなくなってしまうかもしれないという状況にあります。高知医療センターの役割が益々大きくなっていくように感じられます。

<脳神経外科の特徴>

昨年1年間に行われた脳神経外科的手術の総数は277件でした。その内訳は外科的手術が181件、脳血管内手術が96件でした。手術室においてはナビゲーション装置を装備しており、脳腫瘍の手術で重宝しています。手術治療は脳神経外科手術全般を対象としており、成人の手術のみならず、新生児の先天奇形に対しても、小児科、小児外科や形成外科の協力をえて治療を行っているのが特徴かと思われます。

今日、脳血管障害に対して脳血管内治療はなくてはならない治療法となっています。当センターでは、高知においては数少ない脳血管内治療専門医が治療にあたっています。昨年、54例の脳動脈瘤に対して治療を行いました。このうち、脳血管内治療で動脈瘤の塞栓術を行ったのが34例と6割以上を占めていました。破裂脳動脈瘤の治療においては、瘤の形状や全身状態などにより治療法の選択を行っています。脳血管内治療は侵襲が少なく、くも膜下出血後の脳血管れん縮の発生も少ないように思われます。コイルで治療できるものはコイルで治療するという治療方針でやっています。頸部の狭窄病変に対しては、内頸動脈血栓内膜剥離術などの外科治療を行うことはほとんどなくなり脳血管内治療を行っています。

日頃、地域の先生方に大変お世話になっていることに深く御礼申し上げ、脳外科的治療の対症となるような患者さん、特に、脳動脈瘤や頸部の狭窄性病変など脳血管内治療の適応となる症例がございましたら、ご紹介いただければと思います。(文責：森本雅徳)



ナビゲーション装置を使用した手術



さんの症例をご紹介いただいたのと、救急車で搬入される



第3回 CIAO! ドクターズ — 新任医師のご紹介

昨年7月に、高知医療センター広報誌「こころ」臨時号にて医師のご紹介をさせていただきました。今回はその後、新任された医療センター医師のご紹介です。

氏名(ふりがな) ①所属科と併任科 ②経験年数 ③専門分野 ④主な資格 ⑤趣味など ⑥医療機関の方々へ ⑦外来診察日



林 暢紹
はやし のぶつぐ

- ①眼科
- ②平成2年3月高知医科大学卒業、同年5月医師免許取得
- ③眼腫瘍、medical retina、眼附属器疾患(眼瞼、眼窩)
- ④眼科専門医、PDT認定医
- ⑤スポーツ(野球、サッカー、スキー)、キャンプ
- ⑥一般眼科以外に、眼腫瘍性疾患(眼

腫瘍)に関する診断と治療に力を入れています。また、網膜・硝子体疾患の診断およびレーザー治療にも重点的に取り組むとともに、一般眼科では敬遠されがちな眼瞼・眼窩疾患の診断を治療にも取り組んでいます。

⑦現時点では、月曜日から金曜日の午前中(ご紹介は月、水、金の午前中が望ましいです。)よろしくお願いいたします。



尾原 義和
おはら よしかず

- ①循環器科
- ②11年目
- ③虚血性心疾患
- ④内科学会認定医・専門医、循環器専門医
- ⑤子育てに奔走しています。

⑥虚血性心疾患に対する冠動脈インターベンションに力を入れています。狭心症、心筋梗塞の患者さんのご紹介をよろしくお願いいたします。

⑦月曜日午後



海老沢 桂子
えびさわ けいこ

- ①産婦人科
- ②平成13年卒
- ③産婦人科
- ④日本産婦人科学会専門医
- ⑤テニス

⑥患者さんのお役に立てるよう努力していきたいと思っています。よろしくお願いいたします。

⑦木曜日、金曜日



福田 真紀
ふくだ まき

- ①脳神経外科
- ② —
- ③ —
- ④ —

⑤音楽鑑賞

⑥よろしくお願いいたします。

⑦ —

高知医療センターボランティア団体「ハーモニーこうち」に感謝するタベ

平成18年高知医療センター病院ボランティア表彰式をおこないました。今年表彰させていただいた方は43名。活動累計時間2000時間を超える方を筆頭に、日ごろの感謝の気持ちを感謝状に込めて、お受取りいただきました。ハーモニーこうちのボランティアさんの個々の累計活動時間数によって、100・300・500・1000時間の区分で、今年は2000時間を超える活動をして

くださった、梅田正幸さんを筆頭に43名の方を、またハーモニーこうちの役員交代にともない、初代代表を務められた竹内和歌子さんには、グループ発足から軌道にのせるまでのご功労を賛え、特別功労者として表彰させていただきました。

表彰時間	表彰対象者数
100時間を越える方	23名
300時間を越える方	12名
500時間を越える方	4名
1,000時間を越える方	3名
2,000時間を越える方	1名
合計	43名
特別功労者	1名





患者さんのご紹介は電話での仮予約で簡単に…。

高知医療センターでは、できるだけかかりつけの先生方の負担を少なくするために、簡単に診療のご予約をしていただけるよう、以下の方法で承っております。

●患者さんの診療予約の手順

地域医療連携室にお電話をいただければ、診療予約の空いている日時をお答えし、仮予約をいたします。診療申込書は、後でFAXしていただくようお願いいたします。

Step1. かかりつけの先生方



かかりつけ医:診療室で…

電話

予約枠の仮押さえ

- ①希望受診科(医師)
- ②患者さんの氏名
- ③受診希望日
等をお聞きます



地域医療連携室

平日8:30~17:00



私たちが対応しています!(澤田・平山)

その後・・・

Step2. 紹介元医療機関の方



事務職員等

診療申込書と保険証のコピーをFAX

FAX

診療予約票をFAX



診療予約票
診療情報提供書
レントゲンフィルム等
を患者さんへ



医療センターへ
紹介患者さん来院

診療予約のはてな? ③受診歴のある患者さんの予約は…?

高知医療センターに受診歴のある患者さんのご紹介は、簡素にいただけるようなシステムとなっております。①「診療申込書」に患者さんのID番号、氏名、ふりがな、性別、来院方法を記載してFAX、②医療センターの診察券のコピーと「診療申込書」に来院方法を記載してFAX、③保険証のコピーと「診療申込書」に来院方法を記載してFAX。ご不明な点は地域医療連携室へお問い合わせください。



医療法人 山口会 高知厚生病院



〒781-8121 高知県高知市葛島1-9-50
TEL:088(882)6205 FAX:088(883)1655
URL:<http://www.kochi-koseihp.jp>

(診療科)
整形外科、リハビリテーション科、内科、外科、
呼吸器科、循環器科、麻酔科

(関連施設)
通所リハビリテーションこうせい、指定居宅介護支
援事業所こうせい、こうせいこどもクリニック



左から伊与田千草看護師、乾亜矢相談員、
岩本泉看護部長

医療法人山口会高知厚生病院は昭和39年8月26日に開設されました。高知市東部地区の病院として地域社会とともに発展し、現在は一般病床25床(亜急性期病床10床)、療養病床36床(医療型20床、介護型16床)、緩和ケア(ホスピス)病床15床の合計76床で地域の方々に信頼される医療サービスを提供しています。

今回は岩本泉看護部長と地域医療連携室の伊与田千草看護師、そして乾亜矢相談員(MSW)の方々にお話を伺いました。

Q: 地域医療連携室の立ち上げはいつですか?

A: 地域医療連携室として立ち上がったのは、平成17年の6月です。現在のスタッフ構成は看護師2名、相談員1名の合計3名ですが、地域医療連携室の立ち上げ前は、平成6年夏頃から相談業務は相談員1名で行っていました。

Q: 業務内容についてお聞かせいただけますか?

A: 業務内容は、相談員は入退院調整(療養病棟、一般病棟、亜急性期病棟)や入院中の患者さんの様々な相談に対応しています。看護師もこれらの業務に関わりますが、その他に緩和ケアの業務も担当しています。週に2回ホスピス外来、緩和ケア(ホスピス)病棟の入退院調整、ホスピス相談、在宅ホスピスのコーディネートを行っています。

Q: 緩和ケア病棟に関して、どのような状況ですか?

A: 現在は数名の方に待機していただいています。波がありますが、多い時は6、7名の待機となっています。緩和ケア病棟に受入れが難しい場合には、一旦、一般病棟で受入れをしています。緩和ケア病棟の平均在院日数は38日位となっています。

Q: 医療機関との連携などはいかがですか?

A: 近隣はもちろん、県連部の患者さんが多いです。主に一般病棟では、高知医療センターや高知赤十字病院、また近森病院等で手術を終えられて、1ヶ月程リハビリが必要な患者さんを受け入れています。

Q: 在宅訪問、訪問看護はいかがですか?

A: 医師による訪問診療、往診を随時行っています。訪問看護は訪問回数に制限はつきませんが、医療保険で行っています。遠方の患者さんの場合は、地域の医師や訪問看護ステーションへ紹介したり、テレビ電話を用いた在宅ケア支援システムを活用することもあります。

Q: 地域との連携のなかで課題などはありますか?

A: 緩和ケアに対して言いますと、ご本人やご家族の病識や今後の希望等の情報が少ないように感じています。また、がん終末期の患者さんは、ご本人の望みもあると思いますが、ギリギリまで治療をされて、かなり苦しい状況で最後を迎えられる患者さんもいらっしゃいます。早い時期から緩和ケアについての情報提供を行っていくことが大切だと感じています。そして患者さんやご家族のQOL(生活の質)を考えると、治療中から緩和ケアを受けていただくことによりよい時間を過ごしていただけたと思います。

Q: 連携上、苦労している事はありますか?

A: 入院に関しましては、医師間で転院が決まった場合、診療情報はありますが、生活背景に関する情報が少ない場合があり、入院調整に時間がかかることがありますので、看護師又は相談員の方から患者さんの生活背景に関する情報を同時に送っていただけると助かります。

退院に関しましては、近隣の患者さんには退院前訪問指導などで、より患者さんの生活状況に対応した社会福祉資源の活用方法の提案や準備をすることができますが、遠方の患者さんに対しては、状況に応じた退院時の調整が不十分なことがあります。今後それらの地域の資源をもっと活用できるように情報収集していきたいと思っています。

Q: 今後、目指されていることはどんなことですか?

A: これから在宅ケアに力を入れていきたいと思っています。そして入院在宅を含め、ターミナルの方々や地域で困っていらっしゃるの方々を受け入れていきたいと思っています。

お忙しいなか、取材にご協力いただきありがとうございますございました。

お
し
ら
せ

第21回 高知医療センター 救命救急センター救急症例検討会

4月23日(月) 午後5時半～
場所: 高知医療センター2F くろしおホール
テーマ: 救急に関わる消化器疾患について
お問い合わせは…
救命救急センター

第4回日本内科学会四国支部・内科専門医部会 オープンカンファレンス

日時 5月6日(日) 午前10時～12時
会場 高知市文化プラザ・かるぼーと 1階文化ホール
日本医師会生涯教育講座として3単位認定

第36回日本内科学会四国支部・生涯教育講演会

日時 5月6日(日) 午後1時30分～5時
会場 高知市文化プラザ・かるぼーと 1階文化ホール
参加費 1000円 日本医師会生涯教育講座として3単位認定
お問い合わせ: 高知医療センター副院長 深田順一

編集後記

開院2度目の春。昨春も桜の季節に編集後記の当番にあたってしまった。時季的に恒例となるのは、ここで活躍された多くの職員の見送りと、より多くの新しい風を運んでくる職員たちを迎えるコメントを述べる役まわり。どうも苦手だが、その想いは、強く持っているつもりだ。企業長・事務局長というおおきな存在の交替、そして多くの新しい風は、その情熱で、なにもをも刷新してしまわんばかりの勢いさえ感じる。しかし彼らにも、先達の残してくれた何らかのものに意味を感じて集ったことを決して忘れてもらいたくない。やがて地域の医療機関のみならず、あるいは患者さんからの評価もいただければ、professionalとして一日も早く活躍してもらいたいと願いつつ、地域のために共に育てていただければ、とも願っています。ご期待ください。(まごころ窓口 岡林良樹)



広報誌「にじ」に関するご要望・ご意見等をお寄せください。renkei@khsc.or.jp
Kochi Health Sciences Center Home Page : <http://www.khsc.or.jp/>